

みんなで生き方を考えよう！

文責：道徳主任

道徳教育だより 9月号

上赤 義人

体育大会を振り返り

自分の学校・仲間を誇りをもって

体育大会で大きく盛り上がるのが、クラス全員リレーと学年競遊だと思っています。その要因は何でしょうか。一つは走者の「真剣さ」にあると思います。自分の責任を果たす場であり、自分の力を認めてもらう場なので、一生懸命になります。その姿には強さ

があり美しさがあります。二つには「共感」です。応援する人たちは、自分たちのために、自分たちの代表が頑張っているんだという一体感をおぼえ、懸命に応援します。その中に感激があり、友情があり、多くのドラマが生まれます。

子どもたちは、様々な行事の中で、日々の学校生活の中で、多くのことを学んでいきます。そんな学びの場としての“学校”を、子どもたちが“好き”と言える存在にする必要があります。自分の学校・仲間を誇りをもてるような教育活動をつくり出し、「この学校が好き」といえる子どもたちを育てていくことが、私たち教師の目指すところでもあります。

学校ってものは、からだとかからだのぶっつき合うところだ。先生の魂と生徒の魂が触れ合う道場だ。それではじめて、生徒は何ものかを体得するのだ。一生忘れないものを身に付けるのだ。



山本有三 『路傍の石』

いじめの問題について

大津の中学生の自殺をきっかけとして、いじめの問題が社会的な問題となっています。本校でも、先日「いじめに関する調査」を行いました。

いじめの問題は、決して許されないものです。残念なことですが本校でも、いじめがないとは言えません。あらゆる教育活動を通じて、いじめを許さない子どもたちを育てようとしています。特に、心の教育をすすめている道徳の時間においては、その役割は重要であると思います。

一人一人の生徒が正義と勇氣に目覚め、思いやりの心に満ちた自浄力のある学級づくりをしていくために、道徳の時間の指導内容を重点化し、日ごろから計画的に「思いやり」「真の友情」「生命尊重」「規範意識」等の内容を充実していくことが大切であると考えています。このために、年間指導計画の見直しをするとともに、発達段階に応じて適切な資料を選定し、生徒の心に響く道徳の時間となるよう工夫しています。その際最も大切なのは、学んだことから自分自身を振り返らせることであり、道徳は教え込むことではなく、自分を見つめさせることが重要であることを十分に認識することを心がけています。

是非、ご家庭でも、今回のいじめ調査をきっかけに、「思いやり」「真の友情」「生命尊重」「規範意識」などについて子どもたちと語り合っていたきたいと思っています。学校と家庭（保護者の方）とが、同じ方向を見つめて「いじめをしない、させない、許さない」子どもたちを育てていきましょう。

いじめを
しない
させない
許さない

